

令和元年度

登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

関東ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題 1 登録基幹技能者が建設現場で行うマネジメント技術に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 部下の技能者に対して、建設現場において適切な配置を行う。
2. 元請技術者に対して、施工方法等の指示を行う。
3. 部下の技能者に対して、作業方法、手順等の構成を行う。
4. 他職種の職長等に対して、前工程・後工程に配慮した連絡調整を行う。

問題 2 建設技能労働者の目標像に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 将来展望
2. 若年者入職
3. 処遇改善
4. 技能者離職

問題 3 登録左官基幹技能者になるための要件に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 一級左官技能士または職業訓練指導員資格の保有
2. 実務経験 10 年以上
3. 職長経験 3 年以上
4. 技能経験 7 年以上

問題 4 職業能力基準に適合した内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. レベル 1 とは、入職前の高校生や就活している若者をいう。
2. レベル 2 とは、分担された作業手順に基づいて正確に実施できるものをいう。
3. レベル 3 とは、現場管理や工法、技術等について元請の施工管理技術者と協議し、作業手順を組立て、作業員への的確な指示・調整等を行うものをいう。
4. レベル 4 とは、高度な技能を有し、現場管理や工法、技術について元請施工管理技術者と協議できるものをいう。

問題5 登録基幹技能者に求められる能力に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 瞬発力・筆記力
2. 分析力・判断力
3. 企画力・開発力
4. 指導力・統率力

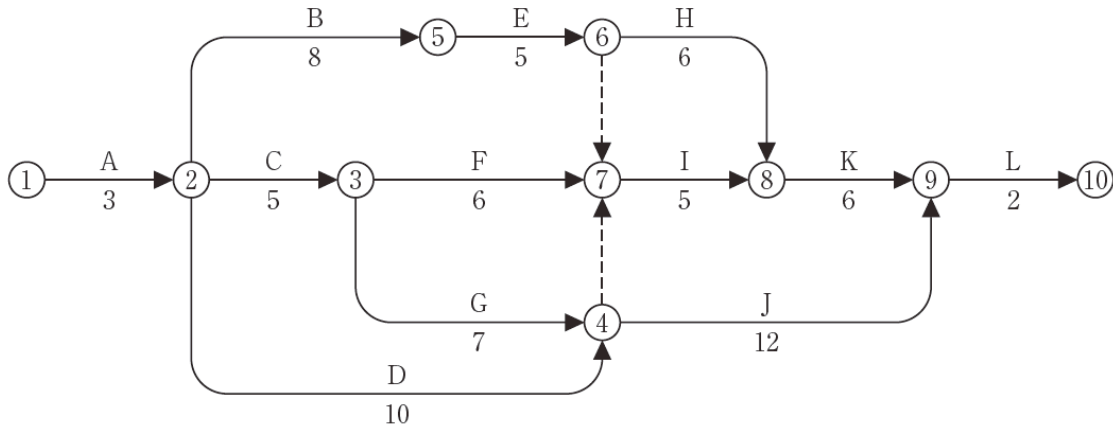
問題6 OJT教育における指導方法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 知識と実例と体験を結集して教える。
2. 仕事の指示・命令は作業終了後に教える。
3. 自分本位の仕事ぶりからお客様本位になるように指導をする。
4. 覚えたい気持ちにさせ、知っていることから知らないことへ進む

問題7 OJT教育における一般事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工場の現場で働く技能者を対象とした、必要最小限のマナー・知識及び技能について習得させるため、作業着の着用方法及び安全具の付け方はOJTに有効である。
2. 現場（職場）の長である登録基幹技能者や、職長クラスが部下に対しての指導・教育に使用する目的のひとつにOJTがある。
3. 一般に工事現場におけるOJTといっても、規模・内容・期間等それぞれ異なり、部下の能力にあった指導をすることよりも、現場の工期に合わせた適切な施工を行うことが大切である。
4. OJTとは、職場の上司が部下の育成のために、日常の仕事を通して行う指導・教育のことであり、OJT教育は、日常の仕事から離れた行われる集合研修・教育とは異なる。

問題 8 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表の矢線は、アクティビティ（作業）を示している。
2. この工程表のクリティカルパスは、A→B→E→H→K→L である。
3. この工程表は、アロー型ネットワーク式工程表である。
4. この工程表における工事の工期は、28 日である。

問題 9 建設業法における建設業の許可に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設業を営もうとする者は、軽微な建設工事のみを請け負う事業者を除き、建設業の許可を受けなければならない。
2. 営業所を 2 つ以上の都道府県に設ける場合は、各都道府県知事の許可が必要である。
3. 下請代金の総額が 4,000 万円以上（建築一式工事の場合は 6,000 万円以上）の工事を下請負人に施工させる建設業者は、特定建設業許可が必要となる。
4. 建設業法において、建設業の許可は、29 業種に区分される。

問題 10 ブレインストーミング (BS) に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 批判をしない。
2. 量を出す。
3. 自由奔放に発想する。
4. 最初から厳選する。

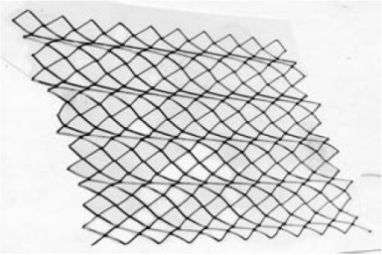
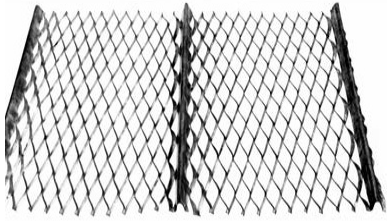

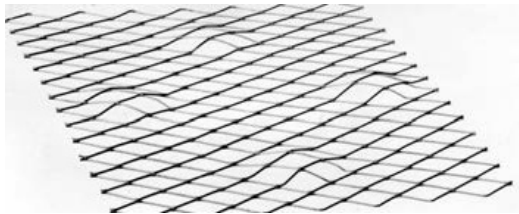
問題 1 1 用語の定義で、最も不適当なものはどれか。

1. ジャンカとは型枠解体後、硬化したコンクリートの表面に見られる、空隙の多い不均質な砂利の露出、凝集部分のことである。
2. 硬化不良とはコンクリートが予定の日数を経て、十分に硬化する筈であるのに、全く硬化せず、壁や床の躯体としての性能の硬さに至らないことである。
3. コールドジョイントとはコンクリート打ち込み継続中、前の層のコンクリートを打ち込んでから相当時間経過した後に、次のコンクリートが打ち継がれたときに生ずる不連続面のことである。
4. 白華とは「ブリージング」ともいい、レンガ目地、コンクリート等の表面に発生する結晶化した白色の物質のことである。

問題 1 2 塗り壁の故障の原因、内容、是正措置とそれぞれの組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか

1. 下地の吸水が激しいときは、吸水調整材を 4~5 倍液にして下地に塗布する。
2. エフロレッセンスは、しみ・はく離を発生するので、除去することが必要である。
3. 富調合による上塗りは、ひび割れや剥離を発生させるので、下塗りほど貧調合にする。
4. 未乾燥のセメントモルタルにせっこうプラスターを塗り付けると、はく離やひび割れが発生するので、セメントモルタルを十分に乾燥させてから塗り付ける。

問題 1 3 1 から 4 のラスの名称と図の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか

	ラスの名称	図
1.	波形ラス	
2.	リブラス	
3.	ラスシート	
4.	こぶラス	

問題 1 4 現場打ちコンクリート下地に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 型枠は完全に取り外された状態であり、せき板の残材や過度のはく離剤付着などの接着上有害な残存物のない状態とすること。
2. 下塗りに先立ち、コンクリートが、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などがある場合は、監理者に報告し、是正作業に取りかかる。
3. 開口部、ひび割れ誘発目地、構造スリットなどの位置や形状について施工図との適合性を確認する。
4. コンクリートは、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などが、適切に補修されている状態とすること。

問題 15 JIS A 6909(建築用仕上塗材)の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 内装薄塗材Cとは、内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材のことである。
2. 内装厚塗材Gとは、内装せっこう系厚付け仕上塗材のことである。
3. 外装薄塗材Eとは、外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材のことである。
4. 内装薄塗材Wとは、内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材のことである。

問題 16 左官用語の解説に関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. グラウトとは、ひび割部にセメントペースト等の結合材を注入することをいう。
2. セルフレベリングとは、流しこむだけで平坦になる性質をいう。
3. スラリーとは、液体中に細かい固体粒子が濃厚に混合され、かつ安定の状態にあるものをいう。
4. シーリング材料はひび割れや隙間を充填する詰め物の材料をいう。

問題 17 単層下地通気構法に関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 防水紙は鎧張りで、継ぎ目部は幅 90mm 以上重ねる。
2. ステープルは、T線以上の線径で、脚長を 19mm 以上のものとする。
3. 質量 800g/m²以上のリブラス、リブ系ラス、防水紙付きリブ系ラス、または同等以上の性能を有するものとする。
4. 通気層より躯体側の防水紙は、透湿防水シートとする。

問題 18 劣化のメカニズムに関して、**最も不適当なものはどれか。**

コンクリートの下地に1. セメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁は、
2. 境界面では、 3. 異なった変形挙動がおきる。これを4. モイスチャームーブメントという。

1. セメントモルタル
2. 境界面
3. 異なった変形挙動
4. モイスチャームーブメント

問題 19 施工計画での基本計画に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 全体のバランスを考え、作業の過度な集中は避ける。
2. 全体工期、全体工費に及ぼす影響の小さい工種を優先して考える。
3. 現場の制約等を考慮して資機材、労働力などの円滑な回転を図る。
4. 繰り返し作業により習熟を図り、効率を高める。

問題 20 製品搬入時の受入検査に関して、最も不適当なものはどれか。

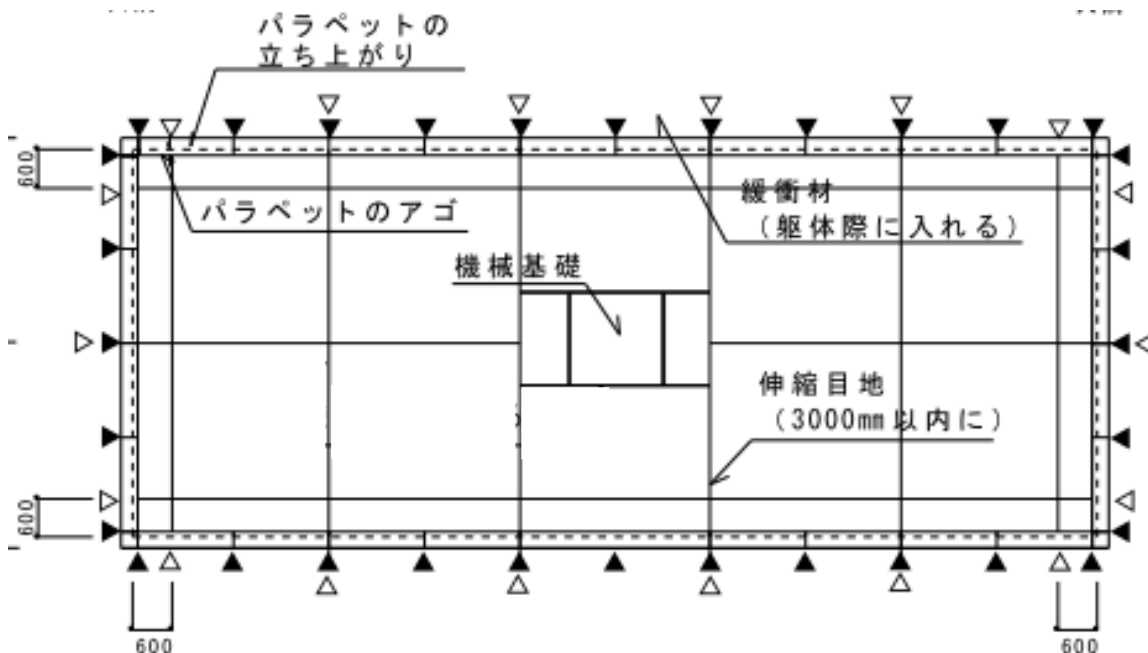
1. 強固に梱包する資材は、あらかじめ製品検査を行い、現場での受け入れ検査は行わない。
2. 搬入依頼した内容と納品書の内容が一致しているか確認する。
3. 納品書の内容と搬入された資材の仕様の相違や数量の不足がないか確認する。
4. 搬入された資材に破損や変質等の異常がないか確認する。

問題 21 ゼネコンの原価管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 積算のプロセスは、設計図書に基づき建設物を構成する各部分の数量を計測・計算を行う「数量拾い」と、数量に対して単価を入れる「値入れ」に分かれる。
2. 数量の拾い方については誰がやっても同じ結果となるように、「数量積算基準」でそのルールを定めている。
3. 「共通仮設費」というのは、各工事種目に共通の仮設に要する費用であり、現場事務所や仮囲いにかかる費用やさまざまな準備費を指す。
4. 消費税等相当額を除いた工事価格は、建設工事、土木工事共に「直接工事費」+「共通費」で構成されている。

問題 2 2 下図のような屋上パラペットの誘発目地及び屋上保護コンクリートの伸縮目地の施工に関して、最も不適当なものはどれか。

1. パラペットの立ち上がりには、全て緩衝材を入れ、コンクリートの伸縮に追従させる。
2. パラペットから最も近い伸縮目地は、全体の割り付けに関係なく 600mm 程度の位置が望ましい。
3. 屋上のパラペットは、外気温の影響を受けやすく、伸縮クラックが発生しやすい。
4. 機械基礎周辺の基礎際には、緩衝材を入れない。



問題 2 3 わが国建設業における労働災害の現状に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 労働災害とは、労働者が就業中に負傷、疾病、障害、死亡数事故であり、通勤途上は含まれない。
2. 死亡災害を事故の型別で見ると、建設工事全体では墜落による事故が最も多い。
3. 建設業の就業者に対する死亡者の比率は、他産業に比較して高い産業である。
4. 建設業の安全対策が難しい理由のひとつは、多業種の専門工事業者が現場内に入場していることが挙げられる。

問題 2 4 各種労働災害防止に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 高さが 2.0m の所で施工する足場組立・解体には、作業床を設置する必要がある。
2. 解体工事は短期間で終わるので、石綿による健康障害防止対策を考える必要がない。
3. つり足場の解体作業に従事する作業者は、作業主任者である必要がある。
4. 居ながらリフォーム工事では、感電、ガス爆発に注意する必要がある。

問題 2 5 法で定められた建設現場における安全管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 現場では、「4S」に努め、廃棄物は決められた場所以外に捨ててはいけない。
2. 労働災害が発生すれば事業者には刑事責任、民事責任、行政責任が発生する。
3. 複数業者が混在する 50 人の建設現場では、二次下請け業者には安全衛生責任者を選定する必要がない。
4. 特定元方事業者は、新たに現場内に入場する作業員の安全教育のための新規入場者教育を行う必要がある